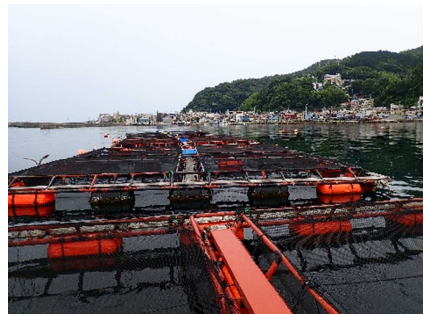


マダイの中間育成の経過報告

今年も伊豆各地で放流するためのマダイ幼魚を、放流に適した大きさまで育てる中間育成が始まりました。田子では6月9日に約23万尾、網代では6月10日に約41万尾の稚魚が、海上に設置した生簀へと搬入されました。マダイは体長60mm以上で放流すると、その後の生き残りが良いことが分かっています。そのため、約50日の中間育成期間で60mm以上に成長させます。

近年は、田子と網代ともに中間育成の生残率が非常に高く、2年連続で70%を上回る高成績となっています。これは、沖出し直後からの給餌や、餌食いの最も良い早朝からの給餌、また給餌量そのものを増やすなど、近年の飼育担当者の取り組みが一因となっていると思われます。

さて、今年の状況ですが、沖出し時の種苗の体長が昨年よりも小さかったためか、生簀への搬入時に例年より多くの斃死が見られました。ただし、田子と網代ともに翌日以降は安定し、活発に餌を食べる様子が確認できました。網代では沖出しの1週間後から1生簀あたり1日数十尾の斃死が続き、6月19日にはピブリオ病と滑走細菌症の混合感染により2つの生簀で多くの斃死が発生しました。投薬および網替えの対応により、被害は数日で沈静化しましたが、連日の大雨による河川水の流入で水温が上がらず、病気の発生しやすい状況が続いています。なお、田子は大雨により濁りは出ているものの、斃死がほとんどなく順調に生育しています。今後も連日の大雨が予想されており、注意が必要な状況が続きそうです。



中間育成現場の様子（左：田子、右：網代）

(鈴木聡志)